

工電線 河電業 古産

21年度 アルミ電線の生産倍増へ

高施工性などで販売拡大

古河電工の子会社の古河電工産業電線（本社・東京都荒川区、社長・白坂有生氏）は2021年度、アルミ導体を採用した建設用電線の生産量を前年度比で2倍に増やす。素材特性や設計の工夫により軽量・高柔軟性を実現した製品。高い施工性などから市場への浸透が進むと見て、供給量が増えると期待する。

体のCVケーブルと比較して、同サイズ比で約半分の重さを実現。さらに曲げる際に必要な力を3分の1に、絶縁体を除去するための力を約2分の1に低減している。これらの特長で優れた施工性を確保し、建設現場での人手不足などの課題解決に貢献。また銅価が高騰する中で、敷設現場からの盗難対策などにも寄与できる。

18年から本格的に市場に展開しており、段階的に実績が挙がっている。さまざまなメリ

ットが市場に浸透し、来期には供給量が倍増するとみている。拡販はSFCが担うが、古河電工産業電線ではメーカーとして有する知見を生かして営業活動を支援。顧客の業種ごとに訴求するポイントを最適化し、きめ細かく伝えるなどの方策を検討している。

アルミ導体の建設用電線「らくらくアルミケーブル」は同社が平塚工場（神奈川県平塚市）で生産しており、昭和電線ホールディングスと古河電工が合弁する電線販社SFCが販売を担当している。

「らくらくアルミケーブル」は従来の銅導

